

〔論説〕

## 青森県立保健大学がめざす人材育成の課題

石鍋 圭子<sup>1)</sup>

青森県立保健大学は、教育理念にも唱っているように健康と生活の質の向上のためにヒューマンケアを実践できる人材育成を目指している。そのため、健康科学部に看護学科、理学療法学科、社会福祉学科、栄養学科（平成20年4月開設）を擁し、保健医療福祉の専門職として地域社会に貢献できることを目標にカリキュラムを組み立てている。そのことを踏まえ、学部教育、大学院、および教育センターでの教育・研修の実際から、本学がめざす人材育成とその課題について提示する。

### 1. 子どもたちの学力の現状と大学教育

現代社会の変化の中で、特に大学への高進学率による学部学生の能力や将来展望も多様化の一途をたどっているといわれている。一方、大学教育を受ける側の準備態勢（学力）はどうだろうか。

平成16年12月に公表された国際学力調査の結果（小学5年生対象）によると、我が国の成績は、読解力が低下傾向にあるなど、世界のトップレベルとはいえない状況である。さらに、学習意欲や学習習慣に課題があることも示されている。つまり、児童生徒の学習意欲や生活習慣などについては、諸外国に比べ「勉強が楽しいと思う児童生徒の割合」が低く、「宿題をする時間」が短いなどの課題があることが分かっている。また、都市化や少子化、地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、人間力の低下が懸念されている。さらに、IT社会の発展でバーチャルな世界に傾倒し、生活体験や自然体験が不足するなど、青少年の生活習慣の乱れや体力が低下し、学ぶ意欲や自主的、主体的に取り組む姿勢が低下しているというのである。こうした現状を踏まえて、中央教育審議会は、これからの子どもたちに求められるのは、①知識や技能に加え、自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力などの「確かな学力」、②他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」、③たくましく生きるための「健康・体力」などの「生きる力」を身に付けることである、と問題提起している。

調査に見られた我が国の児童生徒の学習状況の課題

や、変化する社会の中で子どもたちを取り巻く環境が大きく変化してきている状況を踏まえ、17年2月には再度文部科学大臣から、学習指導要領全体の見直しについて中教審に諮問がなされた。その結果、18年2月にはそれまでの検討状況を整理した「審議経過報告」が取りまとめられ、教育内容の改善の基本的方向性が示された。「審議経過報告」では、教育課程をめぐる課題について、基礎的・基本的な知識・技能を徹底して身に付けさせ、自ら学び自ら考える力を育成するという現行学習指導要領のねらいは今後も重要であり、その実現のための具体的な手立てを講じる必要があると答申している。また、子どもの学習や生活については、読解力の低下、学習習慣や学習・職業への意欲の不十分さ、規範意識の低下、体力の低下などの課題があることが指摘されている。さらに、「言葉」を重視すること、「体験」を充実することが重要であるとしている。「言葉」の重視については、読み書きだけでなく、読解力やコミュニケーション能力の育成を含めて、国語力をすべての教育活動を通じて育成すること、「体験」の充実については、学校で教えられることを実生活とのかかわりの中で実感を持って身につけるようにする観点から、自然体験、社会体験、職場体験、文化体験などの機会を充実することが重要であるとしている。このような児童の現状は、高等教育機関へも持ち越されていると考える。

### 2. 社会の変化に対応できる人材の育成

高等教育機関では、多様に個別化されたニーズ、能力に見合うモジュール化された柔軟なカリキュラムが必要とされる。既に、全国の高等学校では、国公立・難関私立大学への進学実績の向上を目指す「進学指導重点校」、小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、基礎・基本の学習を重視した「エンカレッジスクール」、大学進学を目的とした「進学型専門高校」や「単位制の専門高校」など、いろいろなタイプの教育が試みられてきている。大学においても多様化、個別化の流れは変わらない。また、大学や大学院は社会からの各種ニーズや目的に適合した即戦力となる人材育成が求められる

1) 青森県立保健大学健康科学部看護学科

Department of Nursig, Faculty of Health Sciences, Aomori University of Health and Welfare

など、各大学は、自らの選択により、個性や特色を表わしつつ、緩やかに機能別に分化している。

専門職業人の養成ということでは、2006年の文部白書には、我が国の文教施策生涯学習社会の課題と展望—進む多様化と高度化—と題して今後の医療人の養成についての希望が述べられており、指針となる。すなわち、わが国は、高齢化による疾病構造の変化、患者のニーズの多様化、生命科学や医療技術の急速な進歩などを背景として、国民の期待にこたえる「良き医療人」の養成が一層重要となる。そのためには、感情豊かな人間性、人間性への深い洞察力、倫理観、生命の尊厳等を備えた人間性豊かな医療人を育成する必要があり、医療に関する専門的な教育と同時に人間的成熟を育む幅広い教養教育をしなければならない、というものである。

先に述べたように、本学の使命は保健医療福祉の専門的職業人養成である。目標とするヒューマンケアの実践者は、「良き医療人」の条件を備えていることが求められる。また、豊かな人間性についての要件は、初等・中等教育における子どもの現状とも呼応している。次にヒューマンケアが実践できる人材育成に必要な専門教育と人間教育について考えてみたい。

### 3. ヒューマンケアの実践に必要な専門教育と人間教育

#### 1) 学生の多様なニーズに応えるカリキュラムの提示

本学では、卒業時に取得できる資格として、看護学科は保健師助産師看護師の国家試験受験資格が、理学療法学科は理学療法士の国家試験受験資格が、そして社会福祉学科は社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験資格が取得できる。看護学科では、志望する業種を考慮して臨床看護、地域看護、助産領域の履修例を示し、カリキュラムを選択できるようにしている。また、理学療法学科では卒業後の就職先によって、医療領域と福祉領域の履修モデルを例示し、同様に社会福祉学科では児童相談所、社会福祉事務所などの社会福祉行政機関を志望する学生向けの福祉行政モデル、主に社会福祉施設を中心とした社会福祉の現場を志望する学生向けの社会福祉臨床モデル、精神保健福祉士モデルの履修例を示して学生の個別のニーズに応え得る工夫をしている。さらに、4月開設の栄養学科では、管理栄養士の資格に加え、栄養教諭免許取得のための教職課程を設ける計画である。このように学部教育では、専門職業人として必要な知識と技術を身につけるために、卒業生の業種や就職先のニーズに応える計画的な学習体系を準備している。

#### 2) 人間性を育む教育

人間性を育む教育としては、知識や技術に加え、問題解決能力を涵養することを重視し、主体的学習者育成システムを構築し、小グループによる演習、フィールドワー

ク、臨地実習など大学を挙げて組織的に取り組んでいる。問題解決能力は、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、より良く問題を解決する資質や能力であり、これらを身につけることによって、卒業後も社会の変化に柔軟に対応し、社会の変革に参画できると考える。これらは、高度な専門職業人として成長できる能力として重要である。

#### 3) 他職種と連携・協働できる人材育成

少子・高齢社会ではさまざまな保健医療福祉サービスの需要が増大していく。それらのサービスは、各分野各専門職が個別に提供するのではなく、利用者を中心に据えた上で、限られた資源を総合的効率的に組み合わせて保健医療福祉のサービスを一体的に提供することが求められる。そのための連携は、ヒューマンケアに関わる専門職にとって欠かすことが出来ない。本学では、専門性と同時に連携・協調できる能力の育成を重視している。全学科合同授業である、「保健福祉概論」や「ケアマネジメント論演習」などを通して、教員は学科相互の連携を図り、学生は各学科の専門性を学ぶとともに、異なる学科との協働でよりよいケアを追求するフィールドワークを実践し、体験的に他職種との連携を学んでいる。これらフィールドワークを主とする全学科合同授業は、「下北を元気にする学生参画型教育」のテーマで、2005年の文部科学省現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム(現代GP)に採用されている。

#### 4) 教員の教育力向上に向けて

教育カリキュラムの工夫とともに、重要なのは教員の教える能力の開発(FD)である。これについても教育改善委員会を中心に企画し、合わせて学生による授業評価を取り入れて、教員の教育能力の向上に努めているところである。教育実践の質の向上は学習環境の整備、学生支援サービスの拡充などと連動して実現するものと考え、専門委員会を中心に改善に取り組んでいる。

### 4. 地域・社会の生涯学習の場として

現代社会の課題は、「環境」「健康・福祉」「情報」をキーワードとするといわれる。これらの課題解決ができる人材の育成を行うために、高い問題意識を有する社会人に、より高度な学習の場を提供することが、高等教育機関に求められている。本学大学院の場合、研究能力を高める論文コースに併せて、高度な専門的職能をもつ人材育成を目的とした専門看護師コースを設置している。また、社会人が学習しやすいように夜間開講や科目履修制、研究生制度を取り入れ、さらに長期履修コースなどのさまざまなシステムを取り入れるよう検討を進めている。

教育センターでは、大学の地域貢献を目的に多様な研修プログラムを設けている。看護専門職教育課程はその

ひとつであるが、救急看護認定看護師コース、認定看護管理者コースがあり、これまでに多くの修了生を県内外に送り出している。また、研修科では、現職専門職の学習の場として時宜の課題に対する情報提供や技術的な支援を行う重点研修と並んで、「ケアマネジメントフォーラム」のような保健医療福祉を横断するテーマを継続的に研修する機会を提供している。同時に、教員が地域の専門職に対して企画・運営する研修事業を助成する制度を用意している。さらに、現代GP事業の一貫として、地域住民に対する包括ケアをキーワードに公開講座や専門職対象の学習会を開催している。

このような大学の知的資源を活かしたさまざまな取り組みは、地域の生涯学習の中核施設として大学に求められる人材育成であると考えている。

本学は、来年度開学10周年を迎えるが、幸いにして各学科の国家試験合格率は全国平均を毎年上回っており、就職率もほぼ100%を維持している。ヒューマンケアに携わる人材育成に欠かせない実習を地域の保健医療福祉施設で受け入れていただいているが、実践と教育・研究が相互にリンクしあいながら、地域の保健医療福祉専門職の人材育成を担う大学としての使命を果たしていきたいと考えている。